

# 大学のあるまちづくり ーサスティナブルタウンを目指してー

## 1 目的・概要

本プロジェクトでは、京田辺校地並びに京田辺校地周辺に注目し、「大学のあるまちづくり」とは何かを学生目線で考えることにより、現状課題の解決をすることを目的として活動を進めました。私たちは、京田辺キャンパスは通学環境および学習環境が、今出川キャンパスよりも整備されていないと感じました。例えば、最寄りの駅から長い時間坂道を歩かなければならない点、学内においても坂道が多く、かつ移動距離が長い点、昼食時等に食堂やラウンジが非常に混雑し座席数が足りず、利用できない学生が多くいる点が挙げられます。またこれらは大学生活を送るにあたって必要最低限のものであり、これらの問題を解決することでキャンパス内での時間の使い方を効率化できると考えました。よってこれらの問題を解決するためには何が必要であるかを考え、さらに問題の性質に合わせてプロジェクトメンバーを3つの班に分け、それぞれがメインとなる問題を解決するために話し合いを行いました。以下に各班の概要を示します。



- 学外交通班** 通学の利便性向上案の提案、エスカレータ設置及び維持の費用概算の作成
- 学内交通班** 学内移動の利便性向上案の提案、エスカレータ設置及び維持の費用概算の作成
- 学内設備班** 利用量が少ない学内既存設備の開放、ラウンジ等に混雑状況可視化システムの導入を検討

また、プロジェクトおよび提案の妥当性を確認するために各方面で調査を行いました。調査については、学内における学生を対象としたアンケートや学内の関連部署へのヒヤリング、他大学の学内環境の調査を行いました。調査結果を基に定量的な評価を行い、その後問題の根本的部分を洗い出し、解決へ向けての方向性をメンバー1人1人の案をまとめて決めました。提案については、学生の意見を一方的に押し付けるのではなく、学校の財源等への影響等を含めて考え、「学生だけでなく、すべてのステークホルダーにメリットのあるものを生みだせる提案」となることを最重要事項とし、プロジェクトの実現性についても十分考慮した上で提案書の作成を行いました。

### Annual Schedule

- |       |    |   |
|-------|----|---|
| 2024年 | 4月 | 京田辺校地・校地周辺の課題点の洗い出し                     |
|       | 5月 | 学外交通班、学内交通班、学内設備班に分かれ、各班のプロジェクト概要の作成    |
|       | 6月 | 学外交通班：学内アンケート調査、JR 同志社前駅～同志社大学正門間の地形の調査 |

		エスカレータの概要図の作成
	学内交通班：	学内アンケート調査、南門～教室までの移動方法の思索、自動運転輸送車の概要図の作成、輸送量の算出、経路の設定
	学内設備班：	学内アンケート調査、食堂・ラウンジ・知真館等の利用状況の調査
8月		春学期成果報告、春学期活動の振り返り
9月	学外交通班：	エスカレータ設置費用及び維持費の概算
	学内交通班：	自動運転車案の撤廃、エスカレータ案の決定、南門～教室までの地形の調査
		エスカレータの概要図の作成、エスカレータ設置費用及び維持費の概算
	学内設備班：	会議室の利用状況の調査、新ラウンジ開設案を断念、混雑状況可視化システムの導入を検討、システムの設置及び維持等にかかる費用の概算
12月		各班提案書作成
2025年	1月	最終成果報告
	2月	プロジェクト振り返り

## 2 成果達成度

大学のあるまちづくりについて、「主に学生が過ごしやすい環境」を目指しました。特に通学環境、学内環境に注目することで3テーマを設定しました。それぞれについての活動詳細を報告します。

### 1. 学外交通班

京田辺キャンパスに鉄道駅（JR 同志社前駅、近鉄興戸駅）から通学する際、正門までの長い上り坂を上らなければなりません。そのため、通学が体力的・精神的苦痛となり、授業開始までのリラックス時間が短くなってしまいます。よって、学生が通学のストレスを対処できないまま授業を受けなければならなくなってしまい、授業に集中できず学生の学力低下につながってしまうのではないかと考えられます。そのため私たちは通学の利便性を向上させるために、JR 同志社前駅から正門までのエスカレータの設置を目指しました。その中で、私たちはエスカレータの設置に向けた地形の調査を行い、概要図を作成しました。また、エスカレータの設置及び維持にかかる費用の概算を行い、これらから想定される長所・短所を評価しました。

### 2. 学内交通班

京田辺キャンパスの学生の多くは三山木駅の周辺で下宿しており、南門を通り教室や様々な施設に通学します。しかし、南門の標高は低く計高さ 11 m の階段を上る必要があります。そのため、通学で疲労し、勉学・学生活動に集中できる環境になっていません。私たち学内交通班は様々な方法で学生の移動方法を模索しました。春学期は自動運転輸送車の案を採用し、輸送車の図面、輸送量、ルート、費用などを算出しました。しかし、秋学期ではエスカレータを設置する方がより少ない費用でスムーズに移動できるということを話し合い、地形を調査し概要図を作成しました。また、エスカレータによる移動の短縮できる時間の算出及び、設置及び維持にかかる費用の概算を行いました。



### 3. 学内設備班

京田辺キャンパスにおいて昼食時やテスト期間といった特定の時間帯・場所にラウンジを利用する学生は多く、混雑している状況が見受けられます。また、学内アンケートにおいても座席数が足りていないという意見が多く挙げられ、学友との議論や談笑による新たな考えを生み出す環境が整っていないと考えました。そのため、食堂やラウンジの混雑状況を改善することを目的とし、教室の利用状況のデータから既存設備で利用率が少ない教室を開放することを提案しました。しかし、得られたデータだけでは空き教室を再編成する道筋が見つかりませんでした。そこで、食堂やラウンジ等の混雑状況を把握できれば空いている場所がすぐわかり、利便性の向上につながると考え、混雑状況可視化システムを導入することを検討しました。そして、そのシステムの設置及び維持等にかかる費用の概算を行いました。



## 3 プロジェクトを通じて

本プロジェクトでは京田辺キャンパスにおける通学路や学内施設の課題を洗い出し、解決策を提案する中で、多角的な視点から解決策を検討する能力が養われました。また、チームメンバーと協力し調査、データ収集、費用の概算などを計画的に行い、学生だけでなく職員の方や企業の方との意見交換を行っていくにはコミュニケーション能力が重要であるということを実感しました。しかし、情報収集の難しさや費用などの面から理想的な解決策が実現できない場合もあり、現実との折り合いをつける必要がありました。このプロジェクトを通じて、出来たこと、出来なかったことはありますが、メンバーそれぞれが成長できたのではないかと思います。



#### 編集後記

この1年を振り返ると、履修生同士の意見の相違で活動がうまく進まなかったり、莫大な導入コストに悩ませられたりするなど多くの障壁にぶつかりました。しかし、最終的にはチーム一丸となりこれらの問題を乗り越えることで一人ひとりの能力が向上し、他の大学の授業ではできない貴重な経験をしたと感じます。また、私たちのプロジェクトでは時間の関係上により提案書の作成までで終わってしまいましたが、数年後には実現し未来の同志社の学生が快適な学生生活を送ることを楽しみにしています。

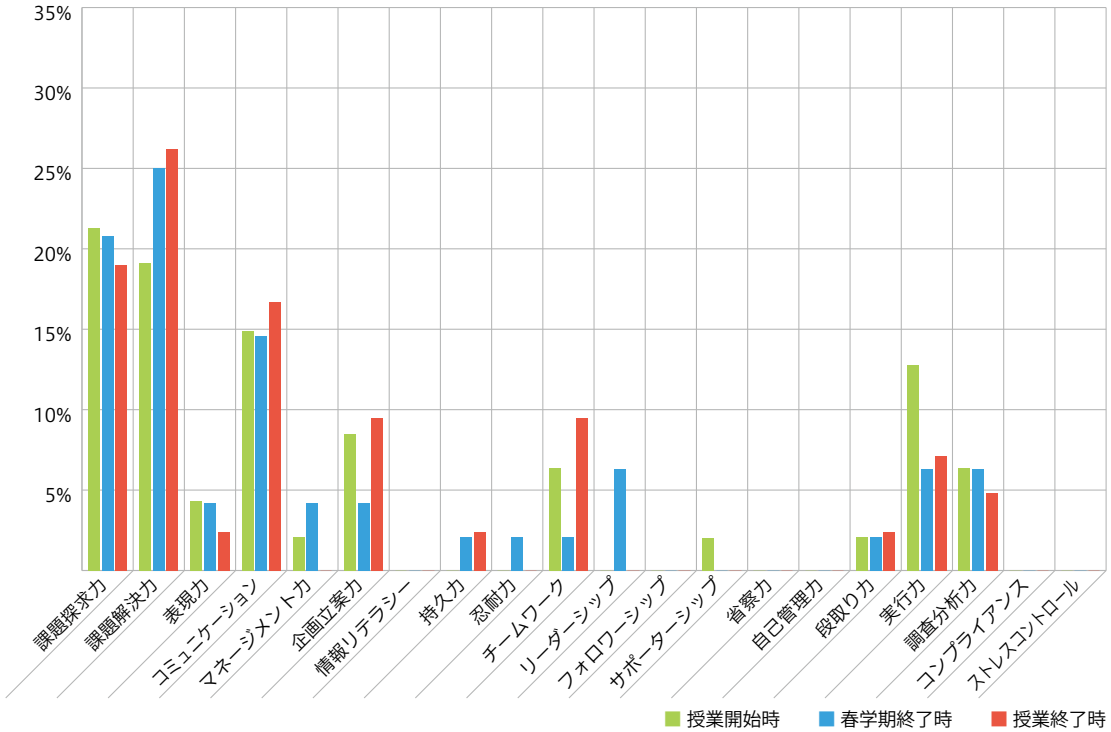
最後になりますが、お忙しい中お時間をさいてご指導いただきました齋藤先生、千田先生、TAの川窪さん、本プロジェクトに携わっていただいた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

#### プロジェクトメンバー

樋口 裕治(理工4) 鎌田 空(理工4) 小島 陽向(理工4) 松永 卓(理工4) 南 将太(理工4)  
中川 研吾(理工4) 中西 翔路(理工4) 岡本 洋(理工4) 東川 楓季(理工4) 安見 享祐(理工4)  
村井 静流(理工4) 大神 慧至(理工4) 田村 俊樹(理工4) 熊澤 佳祐(理工3) 森岡 泰毅(理工3)

## プロジェクト活動 アンケート集計結果

Q1. チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んでください。



Q2. プロジェクト活動を通じて実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んでください。

